地域での堆肥利活用

～J1・タケダファームの事例～

①オーガニックビレッジ
②耕畜連携

有限会社　J1・タケダファーム
事業統括マネージャー
藤原　義浩

令和7年9月18日

本場がある山添村とは・・・

- 奈良県北東部、大和高原に位置し三重県に接する
- 大和茶の主要産地の一つで、茶畑が多い

- 村内を東西に貫く名阪国道により、大都市圏へアクセスし易い
- 世界遺産興福寺などの観光名所を有する近鉄奈良駅より車で40分ほど

(有)Ｊ１・タケダファーム　概要

＜飼養頭数＞

搾乳牛　900頭
乾乳牛　180頭

R6年度から搾乳ロボット(20台)稼働

＜出荷乳量＞　奈良県の生乳生産量の1/2を占める

R6年度出荷乳量　約10,770トン

R7 年度は12,000トン出荷予定

5 /1現在
出荷搾乳頭数　900頭
出荷乳量　33,500kg

＜搾乳ロボット　20台＞

①オーガニックビレッジとの連携

☆オーガニックビレッジとは

農林水産省では、みどりの食料システム戦略を踏まえ、有機農業に地域ぐるみで取り組む産地（**オーガニックビレッジ**）の創出に取り組む市町村の支援に取り組んでいます。
オーガニックビレッジとは、**有機農業の生産から消費まで一貫**し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ**地域ぐるみの取組を進める市町村**のことをいい、
農林水産省としては、このような先進的なモデル地区を順次創出し、横展開を図っていく考えです。

出典：農水省HPより

山添村

山添村長　野村栄作

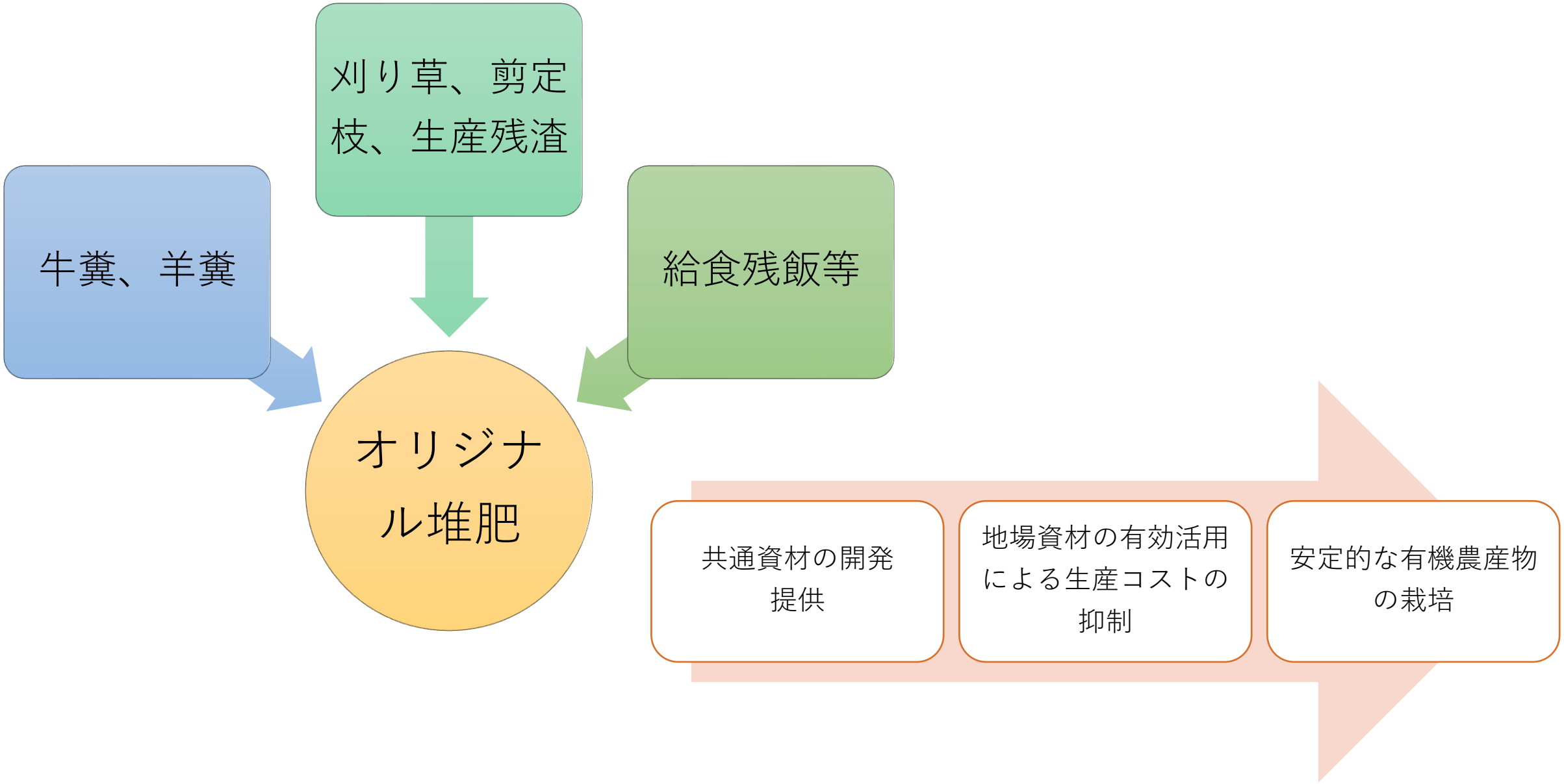
山添村といえば“農業”。私たちは、大和高原地域の気候や風土を活かし、茶や米を主要品目とした農業中心の村づくりに励んできました。しかし近年、離農者の増加が大きな課題となっている中、全国的なSDGｓの推進や環境に配慮した有機農業に取組むことで、これからも地域で農業を続けていける仕組みの構築を目指します。

山添村の立地を生かし、有機農業を実践されている周辺自治体との連携した取組や販路の確立を図り、村に来れば有機農業の学びと実践ができる仕組みつくり、将来を担う子どもたちの学校給食への有機農産物の提供、地域資源を活用した堆肥づくりに取り組みます。

若い世代、地域住民、村に関心のある人などがここ山添村の地でつながり、村内の農地を活用した営農を実践することによる持続可能な山添村の農業の確立に向け、ここに「オーガニックビレッジ」を宣言します。

出典：山添村HPより

◎オリジナル堆肥の製造～農家での活用～地元食材の使用



②耕畜連携～グリーンな栽培体系加速化事業～

- 主に県内の営農組織と連携し、水田への堆肥散布を実施
- 現在は奈良県内８組織、三重県内３組織で堆肥散布を実施している
- 近年は堆肥散布の要望が増えている

牛糞堆肥の散布状況　有限会社ＪＩタケダファーム（Ｒ６年１１月、奈良県御杖村 農事組合法人ほたるの郷水稲圃場）

みつえ高原牧場の堆肥を利用

ダンプベッセルからマニアスプレッダへの堆肥を積み込み

マニアスプレッダ（デリカ社製・積載量3.5ｔ）による堆肥散布

マニアスプレッダ（デリカ社製・積載量3.5ｔ）による堆肥散布

みどりの食料システム戦略緊急対策交付金（グリーンな栽培体系加速化事業）
水稲栽培における牛糞堆肥を活用した化学肥料低減普及実証の取り組み（2023年度～）
○実施地区：奈良県宇陀郡御杖村神末敷津　○生産者名：農事組合法人ほたるの郷　○栽培品種：「露葉風」（酒造好適用米）

大和高原地区化学肥料低減協議会
（奈良県宇陀市・山添村・御杖村・曽爾村）

【結果の概要と今後の方針】

・令和６年産では、牛糞堆肥の施用（２ｔ／10ａ）により、化学肥料を３割削減（穂肥を省略）しても、対照区と同等以上の収量が獲れた。また、土壌にリン酸・カリが多量に投入されることが明らかになり、リン酸・カリの更なる減肥が可能であることが示唆された。

・令和７年産では、７月中旬の生育巡回調査で、牛糞堆肥を施用（２ｔ／10ａ）して元肥のリン酸・カリを減らした区（①）が対照区（③）と比べて、生育（茎数、葉色）が優れている状況。

・農事組合法人ほたるの郷は、令和８年産以降も牛糞堆肥を活用した水稲栽培を継続する意向があり、その場合の条件として、経営収支が見合う事、11月～12月前半の堆肥投入を希望している。なお、牛糞堆肥の仮置場（中継地点）として、同組合の共同作業場を提供できるとのこと。

・これに対して、県内大規模畜産業者の有限会社Ｊ１タケダファームが、事前（８月～９月）に堆肥を搬入することを条件に次年度の堆肥散布を実施することで合意した。

○施肥概要、経営収支、収量等

処理区名	牛糞堆肥			化学肥料											収量（坪刈り）	千粒重	（参考）生育期の茎数	土壌分析結果（作付前）		
	施用量	牧場名	連用年数	土作り（kg/10a）		元肥（kg/10a）		追肥（kg/10a）		成分量（kg/10a）			価格(千円/10a)					全窒素含有率(N)	有効態リン酸(P)	交換性カリ(K)
	(t/10a)			資材名	施用量	資材名	施用量	資材名	施用量	N	P	K		対差	(kg/10a)	(g)	(本/㎡)	(%)	(mg/100g)	(mg/100g)
【Ｒ６年産】																				
① 実証区 堆肥有り	2	U牧場	0	-	-	元肥一発肥料(17-17-17)	40	-		6.8	6.8	6.8	88	▲ 88	479	27.4		0.4	54	94
② 対照区 堆肥無し（石灰N無し）	-	-	-	-	-	元肥一発肥料(17-17-17)	40	I追肥化成（肥効調節型）(15-4-15)	20	9.8	7.6	9.8	127	▲ 49	466	27.7		0.3	14	25
③ 慣行区 堆肥無し（石灰N有り）	-	-	-	石灰N(20-0-0)	20	元肥一発肥料(17-17-17)	40	-		13.8	7.6	9.8	176	-	調査無し					
【Ｒ７年産】																				
① 実証区 堆肥	2	M牧場	2	-	-	元肥一発肥料（低PKタイプ）(27-7-10)	25	-	-	6.8	1.8	2.5	69	▲ 108			498			
② 実証区 堆肥連用	2	M牧場	1	-	-	元肥一発肥料（低PKタイプ）(27-7-10)	25	-	-	6.8	1.8	2.5	69	▲ 108			－			
③ 対照区 堆肥無し（石灰N無し）	-	-	-	-	-	元肥一発肥料(17-17-17)	40	I追肥化成（肥効調節型）(15-4-15)	20	9.8	7.6	9.8	127	▲ 49			437			
④ 慣行区 堆肥無し（石灰N有り）	-	-	-	石灰N(20-0-0)	20	元肥一発肥料(17-17-17)	40	I追肥化成（肥効調節型）(15-4-15)	20	13.8	7.6	9.8	176	-						
【Ｒ８年産計画（案）】																				
① 実証区 堆肥	2～3	J1タケダファーム	1～3	-	-	元肥一発肥料（低PKタイプ）(27-7-10)	31	-	-	6.8	3.1	3.1	68	▲ 109						
② 慣行区 堆肥無し（石灰N有り）	-	-	-	石灰N(20-0-0)	20	元肥一発肥料(17-17-17)	40	IB4号(15-4-15)	20	13.8	7.6	9.8	176	-						

今後の課題

作業者の確保	• 散布場所の年間を通じた確保 • 営農組織からの協力の取り付け
作業効率の向上	• 散布希望時期の集中 • 作業マニュアルの確立
機械の維持、更新、新規導入	• 定期的な整備

ご清聴ありがとうございました

有限会社　J1・タケダファーム
事業統括マネージャー
藤原　義浩

令和7年9月18日